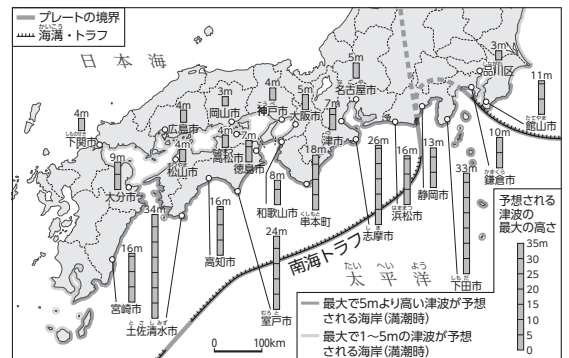


1. 防災への工夫

- (1) 資料Ⅰで、南海トラフ地震によって、5 m以上の津波が予想されているのはどこの地域だろうか。また、予想される最も高い津波の高さは何mだろうか。

5 m以上の津波が予想されている地域	(例) 関東地方から九州地方にかけての太平洋沿岸
最大の津波の高さ	34 m

資料Ⅰ 南海トラフの巨大地震が起きた際に発生すると想定されている津波の高さ



- (2) 「トラフ」とは何か説明してみよう。

(例) 海底の深い部分にある幅をもった溝で、海溝ほどの深さのない所。

- (3) 地震などの防災に向けて、どのような施設や設備の工夫がされているのか、資料Ⅱなどを参考に説明してみよう。

(例) 建物を地震の揺れに強くしたり、津波を防ぐ堤防を造ったり、津波の避難場所となるタワーを設置したりしている。

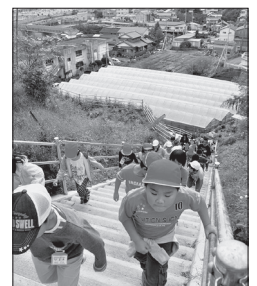
資料Ⅱ



- (4) 資料Ⅲなどを参考にし、施設・設備以外に、災害対策として必要なことを挙げてみよう。

(例) 日頃の防災教育や災害情報の伝え方の見直しをすることや、過去の災害の記録や経験を教訓として防災や減災に生かすこと。

資料Ⅲ



2. 災害への対応

- (1) ハザードマップが必要な理由を考えてみよう。

(例) 身近な地域の自然環境の特徴や起こりやすい災害を知っておき、災害が発生したときの準備をふだんから行うことが大切であるため。

- (2) あなたの家庭や地域では、予想される災害に対してどのような備えをしているか紹介してみよう。

地域で予想される災害	家庭や地域の備え
(略)	(略)

本時のまとめ

◆ 自助、共助、公助の取り組みについて説明しよう。

(例) 自助は非常持ち出し袋や非常食などの準備や、住居の耐震化など個人での準備、共助は地域による避難訓練の実施や災害時のボランティア活動など地域による取り組み、公助は国や地方公共団体などによる支援であるが、それぞれが独立して行われるのではなく、相互に補完し合いながら行われることが求められている。